

総務常任委員会は、所管事務調査の一環として11月9日から10日まで、岩手県北上市、同県紫波町にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉委員長 大竹 功一 副委員長 大木 絵理  
 委員 石名 国光 委員 縄田 角郎  
 委員 根本 建一 委員 吉見 優一郎

北上市保健・子育て支援複合施設hokko(ほっこ)

利便性の良い工夫が多数

天候に左右されず、一年中屋内での一体的な検診実施が可能となるよう、検診車を屋内に配置できる構造となっていることや、衛生面、そして安全面に配慮したこども検診ルームを設置するなど、いずれも利用者目線を第一に考えた施設づくりをしていた。本市の複合施設の類似施設の先進事例として大変参考になった。

紫波町「オガールプロジェクト」

民間主導型の公民連携まちづくり

10.7haの町有地を民間主導型の公民連携により公共と民間の混合施設を整備するもので、全国から成功事例として注目を集めていた。官と民の役割分担により、県フットボールセンターをはじめ、図書館、バレーボール専用体育施設を兼ね備えた宿泊施設、役場庁舎、直売所、保育園の整備等を行っていた。このプロジェクトによって紫波町の地価公示は10年連続で上昇し、21.7%の増となっていた。



紫波町「フルデマンド型乗り合いバス」

利用登録不要で誰でも利用できる

片道 500円、乗合のときには 300円で、誰でも等しく利用が可能であり、自由に乗降場所を設定できるという運行システムとなっていた。最短ルートなどを計算するAIのシステムを採用しているのが特徴。利用者から評判がよくスムーズで、かつ、効率的な運行に取り組んでいた。

紫波町「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進事業」

企業版ふるさと納税

町に関わる事業を実施しようとする民間事業者から提案された事業を、事業者自ら町内外の事業者に対して企業版ふるさと納税により町内への寄付採納を呼びかけ、その寄付額の範囲内を限度額とし、補助金を交付して行う事業。これまでに、バレーボールを活用した地域振興事業が実施されていた。

建設水道常任委員会は、所管事務調査の一環として11月9日から11日まで、宮崎県日南市、鹿児島県霧島市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉委員長 北野 唯道 副委員長 室井 伸一  
 委員 山口 耕治 委員 大花 務  
 委員 戸倉 宏一

宮崎県日南市「城下町飢肥景観計画」他

住民自らのアイデアでまちづくり

日南市では美しいまちづくり「城下町<sup>おび</sup>飢肥景観計画」「港町<sup>あぶらつ</sup>油津景観計画」について行政調査を行いました。城下町・飢肥地区では昭和50年頃に江戸時代から続く街並みについて議論が行われ、地元の人たち自らが研究会を立ち上げ課題解決に向け取り組んできたこと、また、油津地区の赤レンガ館の歴史ある建物の保存に際し、30数名の有志の方が資金を出し合い、後にまちづくりに役立ててもらおうと土地建物を市に寄贈するなど、景観まちづくりの推進に向け、住民をはじめ、多様な組織の参加により取り組まれていました。

私たちが注目したのは、住民自らが自発的にアイデアを出し、観光のためのものではなく、まちの歴史や文化を後世に伝えることに重点が置かれたことでした。観光開発はその結果であることを学ばせていただきました。



鹿児島県霧島市

民間主導のリノベーション

霧島市では「リノベーションまちづくり」「霧島リノベーションまちづくり実行協議会」について行政調査を行いました。リノベーションとは既存の「自然・歴史」と磨き上げてきた「人・食」とを「遊休不動産(空き家、空き店舗等)」という新たな資源とリミックスすることにより、地方でイノベーションを興すことを目的とした課題解決のための取り組みであることが分かりました。そして、行政に頼るのではなく民間主導でリノベーションまちづくりに挑戦しているということでした。行政側は民間主導のリノベーションを支援するという立場で、まちづくりの成長戦略に繋げていることを学んできました。